

# 医療安全トピックス TOPICS

Vol. 151

井上 純子

公益財団法人日本医療機能評価機構  
医療事故防止事業部 副部長

## 第71回報告書「離床センサーが電源の入れ忘れや使用方法の間違いにより作動しなかった事例」について

公益財団法人日本医療機能評価機構の医療事故情報収集等事業で提供する医療安全情報で、2022年12月に公表した第71回の報告書で取り上げた「離床センサーに関する注意事項」について紹介します。

公益財団法人日本医療機能評価機構では、医療事故情報収集等事業（以下：本事業）を行っています。本事業では、医療安全推進のため四半期ごとに報告書を作成し公表しています。報告書では、報告書の分析対象期間に報告された医療事故情報からテーマを設定し、過去にさかのぼって事例検索し分析を行っています。

本稿では、2022年12月に公表した第71回報告書の分析テーマで取り上げた「離床センサーが電源の入れ忘れや使用方法の間違いにより作動しなかった事例」（以下：本テーマ）について紹介します。

### ●離床センサーの使用

2021年に本事業に報告された事例5243件の医療事故情報のうち、転倒の事例は857件（16.3%）<sup>★1</sup>と「事故の内容」の選択項目の中で最も多く報告されています。

多くの医療機関で、療養するベッドから患者が起き上がる、または歩き出すことによって発生する転落や転倒の防止、または発生した際の早期発見のため、離床センサーを使用しています。離床センサーには、ベッドのマットレスの上・ベッド下の床に設置するマットセンサーや、患者に取りつけておくクリップセンサー、赤外線線で患者の動きを感知する赤外線センサーなどさまざまなタイプがあります。そ

れらは、患者の状況に応じて選択され、多くの場面では有効に働いていると思われます。

### ●報告書で取り上げた事例

本事業には、離床センサーが設置されていたにもかかわらず適切に使用していなかったため機能せず、患者の動きを察知できなかった事例が多く報告されています。そこで、分析テーマで取り上げて検討を行うことにしました。

本テーマでは、離床センサーは設置していたが電源が入っていなかった事例や、電源は入っていたが作動しなかった事例を分析の対象としました。2020年1月～2022年9月に55件の医療事故情報が報告されていました（図表1）。

### ●離床センサーの電源が入っていなかった事例

離床センサーの電源が入っていなかった状況を整理したところ、電源を入れ忘れた事例が多く報告されていました（図表2）。電源を入れ忘れた状況は、患者がトレイなどから帰室した際が最も多く、そのほかには、センサーの再設置後、ベッド周囲での排泄介助後、配膳・下膳後などでした。また、事例の発生した背景・要因で最も多かったのは確認不足でしたが、それ以外に、離床センサーの電源を切っていることの情報共有や伝達が不足していたことが記載されていました。

★1 医療事故情報収集・分析・提供事業 2021年1月～12月 YA-65-C 事故の内容×事故の程度、[https://www.med-safe.jp/contents/report/html/nennzi/2021/TTL260\\_YA-65-C.html](https://www.med-safe.jp/contents/report/html/nennzi/2021/TTL260_YA-65-C.html)